

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

情報提供

第 244 回 全国民「禁煙」ムード??

2008.3.1

このほど国税庁が公表した平成 18 年度の「税務統計 個別間接税関係（速報）」によると、平成 18 年度のたばこの課税数量が前年度よりも 8.2% 減少（1776 億本）している。平成 18 年度税制改正でたばこ税の税率が引き上げられたことから、平成 18 年 7 月 1 日よりたばこの販売価格が 1 本あたり 1 円程度上がった。この点だけで考えると、今回のたばこ課税本数減少は、たばこ税率の引き上げが原因と見える。

しかし、たばこの値上げが無かった前年度（平成 17 年度）のたばこ課税数量を見ると、平成 18 年度の減少率を上回る 12.3% の減少率が記録されている。平成 17 年といえば、平成 15 年 4 月に施行された「健康増進法」や同年 5 月に策定された「新たな職場における喫煙対策のためのガイドライン」により、公共施設、飲食店、職場、路上などさまざまな場所で禁煙化や分煙化が進んでいたところである。

また、JT が 10 月 17 日に公表した「2007 年全国たばこ喫煙者率調査」によると、2007 年 5 月現在の全国の喫煙者率は男女計で 26.0% だ。これは、前年に比べて 0.3%、5 年前（2002 年）に比べると 4.9% の減少になっている。厚生労働省の調べでも、1970 年代後半の約 3500 億本をピークにたばこの消費量は減少傾向だそうである。

日本での成人の喫煙率は 1966 年頃（男性 83.7%、女性 18.0%）をピークに、2006 年では全体で 26.3%（男性 41.3%、女性 12.4%）と減少傾向にある。国別にみると、全人口および男性の喫煙率は、東アジアで高く北米やヨーロッパで低い。逆に、女性の喫煙率は東アジア諸国の方が低い傾向がある。WHO の資料（2002 年）によると、中国 35.6（男 66.9、女 4.2）%、韓国 35.0（男 65.1、女 4.8）% に対し、スウェーデン 19.0（男 19.0、女 19.0）%、米国 23.6（男 25.7、女 21.5）% であった。我国では特に、60 歳以上の男性の喫煙率が、ピーク時の約 5 分の 2 に低下している。しかし先進国と比較すると、日本の全人口の喫煙率はまだ高く、特に男性に関してはトップレベルである。一方、女性の喫煙率は欧米諸国の方が高い。

日本においては男性の喫煙率がかなり高いが、2004 年以降、男性の喫煙率は低下し、逆に女性の喫煙率は緩やかに上昇する傾向が見られている。女性全体での喫煙率は、ここ 30 年来 15% 前後を保持しているが、近年 20 代女性の伸びが顕著である（2003 年度調査では 23.1% となっている）。海外では一般的に、頻繁なたばこ税増税や、法律による（国によってはカフェやバー、レストランなど飲食店を含む）禁煙区域の設定、たばこパッケージに貼付する健康警告表示（国によっては実写の肺がん患者の肺を表示）など、健康とエチケットに対する配慮から、喫煙率低下のための施策が行われている。

家では「ピー缶」、外では「ロングピース」を、1 日 40 本以上吸う小生にとって、肩身の狭い世の中になってしまった。まるで悪人扱いされている毎日だから、吸わなければいいのに...（泣）、皆さん健康には気をつけましょう！！